

前  
国  
語

人間文化学部

地域文化学科

(90分)

生活デザイン学科

人間関係学科

国際コミュニケーション学科

(60分)

注意事項

- 1、解答開始の合図があるまで、この問題冊子および解答冊子の中を見てはいけません。
- 2、問題は3題で、13ページありますが、志望する学科によって解答する問題が異なるので注意しなさい。指定されていない問題を解答しても採点しません。
- 3、生活デザイン学科・人間関係学科・国際コミュニケーション学科を受験する者は、第1問・第2問を解答しなさい。地域文化学科を受験する者は、第1問と第3問を解答しなさい。

この注意事項は、問題冊子の裏表紙にも続きます。問題冊子を裏返して必ず読みなさい。

- 4、解答開始後、解答冊子の表紙所定欄に受験番号、氏名をはっきり記入しなさい。表紙にはこれ以外のことを書いてはいけません。
- 5、解答は、すべて解答冊子の指定された箇所に入しなさい。解答に関係のないことを書いた答案は無効にする場合があります。
- 6、解答冊子は、どのページも切り離してはいけません。
- 7、試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。解答冊子を持ち帰ってはいけません。

## 第1問

次の文章を読んで、後の問い(問1～5)に答えよ。





注  
ぶぶづけ……茶漬け。

コンテクト……文脈。

ヴィゴツキー……一八九六～一九三四年。ロシアの心理学者。

エビグラフ……彫り込んだ文。刻文。銘文。

サブテキスト……文学作品の本文の背後の意味。言外の意味。

問 1 傍線部ア、オのカタカナを漢字に直せ。

問 2 傍線部①について「もどかしい思いをする」のはなぜか、本文中の言葉を用いて、句読点を含めて七〇字以内で説明せよ。

問 3 傍線部②に「かなしみが、詩となる」とある。かなしみが詩となる理由を、本文中から句読点を含めて四〇字以内で抜き出せ。

問 4

3

に入る最も適した言葉は何か、次の中から一つ選び、番号で答えよ。

1 「心の表層」

2 「他者の言葉」

3 「影の部屋」

4 「独自の法則」

5 「思考の矛盾」

問 5

本文の内容に合致するものを次の中からすべて選び、番号で答えよ。

1 人間の心の世界と言葉はずれてしまうことがあるが、優れた詩や文学、映画、演劇のように見事に一致することができる。

2 言葉になる前の意識や感情、動機を探り感じることができれば、言葉は心的世界と矛盾のないものとして理解できる。

3 人間は自分の心的世界をいつわりながら言葉を選び、発言したり行動していることが多く、屈折した性格をもつ存在である。

4 他者の言葉を理解するには、言葉の表層の意味につくされない思いや心の動きを考えることが大切である。

5 『街の灯』のなかの娘の「You」という一語は、言語により概念化された意味からあふれる心の世界があることを示している。

6 京都のぶぶづけのエピソードやテレビで女性相談者が流した涙は、コミュニケーションの楽しさを表している。

## 第2問

次の文章を読んで、後の問い(問1、2)に答えよ。







注 荒川修作……一九三六〜二〇一〇年。愛知県名古屋出身の芸術家、建築家。

三鷹天命反転住宅……二〇〇五年に完成した東京都三鷹市にある集合住宅。

ロフト……屋根裏部屋。天井を高くして部屋の一部を二層式にした上部スペースのこと。

問1 傍線部①に「数学的道具を持って実世界に立ち向かう、という数学者像はもはや通用しない」とあるが、筆者の考える数学者像の変化について、本文中の言葉を用いて、句読点を含めて一五〇字以内で説明せよ。

問2 傍線部②において、「この建築は決して、安住のための空間ではない。むしろ、あらゆる日常の行為の再構成を迫る空間である」と筆者は述べているが、「この建築」の特徴と目的について、本文の内容をふまえて、句読点を含めて二五〇字以内で説明せよ。

### 第3問 次の文章を読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。

石山の奥、岩間のうしろに山あり、国分山といふ。そのかみ国分寺の名を伝ふなるべし。ふもとに細き流れを渡りて、翠微に登ること三曲二百歩にして、八幡宮たたせたまふ。神体は弥陀の尊像とかや。唯一の家には甚だ忌むなることを、両部光をやはらげ、利益の塵を同じうしたまふも、また貴し。日ごろは人の詣でざりければ、いとど神さび、もの静かなるかたはらに、住み捨てし草の戸あり。蓬・根笹軒をかこみ、屋根もり壁おちて、狐狸ふしどを得たり。幻住庵といふ。あるじの僧ながしは、勇士菅沼氏曲水子の伯父になんはべりしを、今は八年ばかり昔になりて、まさに幻住老人の名をのみ残せり。

予また市中を去ること十年ばかりにして、五十年やや近き身は、蓑虫の蓑を失ひ、蝸牛家を離れて、奥羽象潟の暑き日に面をこがし、高砂子歩み苦しき北海の荒磯にきびすを破りて、今歳湖水の波にただよふ。鳩の浮巢の流れとどまるべき蘆の一本のかげたのもしく、軒端ふきあらため、垣根ゆひそへなどして、卯月の初めいとかりそめに入りし山の、やがて出でじとさへ思ひそみぬ。

さすがに春の名残も遠からず、つつじ咲き残り、山藤松にかかりて、時鳥しばしば過ぐるほど、宿かし鳥のたよりさへあるを、木啄のつつくともいとほじなど、そぞろに興じて、魂呉・楚東南に走り、身は瀟湘・洞庭に立つ。山は未申にそぼだち、人家よきほどに隔たり、南薫峰よりおろし、北風湖を浸して涼し。比叡の山、比良の高根より、辛崎の松は霞こめて、城あり、橋あり、釣たるる舟あり、笠取に通ふ木樵の声、ふもとの小田に早苗とる歌、蚩飛びかふ夕闇の空に水鶏のたたく音、美景物として足らずといふことなし。中にも三上山は土峰の佛に通ひて、武蔵野の古き住みかも思ひ出でられ、田上山に古人をかぞふ。ささほが嶽・千丈が峰・袴腰といふ山あり。黒津の里はいと黒う茂りて、「網代守るにぞ」と詠みけん『万葉集』の姿なりけり。なほ眺望くまなからむと、うしろの峰に這ひ登り、松の棚作り、藁の円座を敷きて、猿の腰掛と名付く。かの海棠に巢を営び、主簿峰に庵を結べる王翁・徐佗が徒にはあらず。ただ睡癖山民と成つて、辱顔に足を投げ出だし、空山に虱をひねつて坐す。たまたま心まめなる時は、谷の清水を汲みてみづから炊ぐ。とくどくの雪を詫びて、一炉の備へいとかるし。はた、昔住み

けん人の、ことに心高く住みなしはべりて、たくみ置ける物ずきもなし。持仏一間を隔てて、夜の物納むべき所など、いささかしつらへり。

さるを、筑紫高良山の僧正は、賀茂の甲斐なにかしが殿子にて、このたび洛にのぼりいましけるを、ある人をして額を乞ふ。いとやすやすと筆を染めて、「幻住庵」の三字を送らる。やがて草庵の記念となしぬ。すべて、山居といひ、旅寝といひ、さる器たくはふべくもなし。木曾の檜笠、越の菅蓑ばかり、枕の上の柱にかけたり。昼はまれまれ訪ふ人々に心を動かし、或は宮守の翁、里の男ども入り来たりて、「猪の稲食ひ荒し、兎の豆畑に通ふ」など、わが聞き知らぬ農談、日すでに山の端にかかれば、夜座静かに、月を待ちては影を伴ひ、燈火を取りては罔両に是非をこらす。

かく言へばとて、ひたぶるに閑寂を好み、山野に跡を隠さむとはあらず。やや病身、人に倦んで、世をいとひし人に似たり。つらつら年月の移り来し拙き身の科を思ふに、ある時は仕官懸命の地をうらやみ、一たびは仏籬祖室の扉に入らむとせしも、たどりなき風雲に身をせめ、花鳥に情を勞じて、しばらく生涯のはかりごととさへなれば、つひに無能無才にしてこの一筋につながる。「樂天は五臓の神を破り、老杜は瘦せたり。賢愚文質の等しからざるも、いづれか幻の住みかならずや」と、思ひ捨てて臥しぬ。

カ

(松尾芭蕉「幻住庵の記」より)

注 翠微……山の中腹。

唯一……唯一神道。神道の一派。

両部……両部神道。神道の一派。

市中……まちなか。

呉・楚……春秋時代の国。

瀟湘・洞庭……中国湖南省の瀟水と湘水の二河、およびそれらが流入する洞庭湖のあたり。

土峰……富士山。

王翁・徐侗……ともに求道の隠士。

睡癖山民……眠り癖のついた山住みの人。

孱顔……山の高いさま。

巖子……子息の敬称。芭蕉の造語。

罔両……妖怪。ここでは、自分の影法師のこと。

楽天……白居易。中唐の詩人。

老杜……杜甫。盛唐の詩人。

問1 傍線部ア「なる」・イ「なり」・オ「なる」について、文法的説明としてふさわしいものを次の中から選び、番号で答えよ。

1 形容動詞の活用語尾

2 可能の助動詞

3 動詞

4 尊敬の助動詞

5 存続の助動詞

6 断定の助動詞

問2 傍線部ウ「卯月の初めいとかりそめに入りし山の、やがて出でじとさへ思ひそみぬ。」を現代語に訳せ。

問3 傍線部エは「坤」とも表記する。それはどの方位を示すか、漢字で記せ。

問 4 空欄 カ には、作者の心情を詠んだ句が入る。次の中から最もふさわしいものを一つ選び、番号で答えよ。

- 1 秋十年却かへつて江戸を指す故郷
- 2 先づ頼む椎の木も有り夏木立
- 3 夏山あしだに足駄あしだを拝かどむ首途かな哉
- 4 酒飲めばいと寝られね夜の雪
- 5 咲き乱す桃の中より初桜

問 5 本文の内容に合致するものを次の中からすべて選び、番号で答えよ。

- 1 八年前に作者が暮らしていた住居のすばらしさについて述べている。
- 2 作者が暮らしている住居の名称について述べている。
- 3 作者が市中を去ったときの年齢は、おおよそ五〇歳である。
- 4 白居易や杜甫を超える作品を作るといふ決意を述べている。
- 5 白居易や杜甫の業績も自分の営みも、ともに夢幻のごときものであると述べている。

問 6 作者の松尾芭蕉と同時期に活躍した文学者を次の中から二人選び、番号で答えよ。

- |         |          |        |
|---------|----------|--------|
| 1 十返舎一九 | 2 与謝蕪村   | 3 井原西鶴 |
| 4 上田秋成  | 5 近松門左衛門 | 6 小林一茶 |